

第一話 始動

アホの極み男

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

エレン達がついに始動！

第一話
始動

目
次

1

第一話 始動

くシガンシナタウンく

「おーいーアルミーン！ポケモン貰いに行くぞー！」

そう叫んだピカチュウを肩にのせた少年の名はエレン・イエーガー、ポケモンマスターを目指している少年

「エレン、落ち着いて」

そういった少女の名はミカサ・アツカーマン、エレンの幼馴染であり、チャンピオン、リヴァイの妹である

「ごめん！準備に時間かかっちゃった」

そう言っつて扉から出てきた少年の名はアルミン・アルレルト、ポケモン博士を目指している

エレン「早く行こうぜー！父さんが呼んでるから」

ミカサ「エレン、早い、まだ時間はあるから」

アルミン「待ってよー！二人共」

くイエーガー研究所く

エレン「父さんきたぜー！」

グリシヤ「おっ、きたな、ミカサとアルミンはまだか？」

ミカサ「やつと追いついた、エレン早すぎ」

アルミン「ハアハア：二人共早いよ：」

グリシヤ「ハツハツハ！元気なのはいいことだ！連れて行くポケモンは決めているのか？」

エレン「まだ決めてねえわ、ミカサとアルミンは決めてんのか？」

ミカサ「まだ、見てから決めるつもりだった」

アルミン「僕も、まだ決めてない」

グリシヤ「みんなみてから決めるつもりだったのか：よしじゃあ見せてあげよう！さあ！君たちでこい！」

中からでてきたのは炎タイプのヒトカゲ、水タイプのポツチャマ、草タイプのツタージャの3体

エレン「あれ？ほんとはもつといなかったか？」

グリシヤ「実はお前らより前にきた子たちが、みんな連れて行った

んだ…」

エレン「まじか〜まあいいや丁度3体いるしな」

ミカサ「この子、ずっと私を見てる…」

ポツチャマ「ポチャ！ポチャ！」

ポツチャマがそうだと言わんばかりにジャンプする

ミカサ「私と一緒にいいの？」

ポツチャマ「ポチャ！」

ミカサ「エレン、アルミン、私この子にしていいい？」

エレン「おう！そいつがお前を選んだんだろ？」

アルミン「僕もエレンと同じ意見だよ」

ミカサ「ありがとう、ポツチャマ、よろしくね」

ポツチャマ「ポツチャ！（おう！よろしくな！）」

グリシヤ「ミカサはポツチャマだな、エレンとアルミンはどうする？」

エレン「こいつ…ずっと俺のことずっとみてる」

ヒトカゲ「カゲツ！」

アルミン「この子、前に来たときエレンに懐いてたね」

エレン「ああ！こいつあんとときのやつか！俺が連れて行ってやるって約束した！」

グリシヤ「なんでそれを忘れてたんだ…」

エレン「寝たら忘れた！お前俺と一緒に行くか？」

ヒトカゲ「カゲ〜！」

ヒトカゲがエレンに抱きつく

エレン「ハハッ！くすぐつてえなくよしっ！分かった俺と一緒にいかか！」

ヒトカゲ「カゲツ！（よろしくね〜！）」

エレン「ピカチュウ！お前にも友達ができたな！」

ピカチュウ「ピカッ！ピカピ！ピカチュウ！（よろしくね！ヒトカゲ！でもエレンの相棒は譲らないよ！）」

ヒトカゲ「カゲ！カゲ！（僕だって負けないよ〜！）」

エレン「おいおい、仲良くなんの早えなw」

グリシヤ「ハツハツハ、アルミンはツタージヤになるがいいか？」
アルミン「はい！ツタージヤ、よろしくね！」

ツタージヤ「タージヤ（よろしく〜）」

アルミン「結構軽いねwこの子」

ミカサ「ええ、面白い」

グリシヤ「みんなポケモンは決まったな、さあ最初に行く場所はマリアシティだ、そこでトレーナーになる手続きをしてくれ、その場に何人かいると思うから、そこにいる子達が君たちの同期となるな」

エレン「同期か〜どんなやつがいるんだろうな、楽しみだぜ！」

アルミン「仲良くなれるかな〜」

エレン「仲良くなれるじゃねえ、なるんだ！」

ミカサ「ええ、エレンの言うとおり」

グリシヤ「私としてはミカサが一番心配なんどけどなw」

ミカサ「なんと〜」

エレン・アルミン「アハハハハ！」

〜シガンシナタウン出口〜

グリシヤ「お前ら！体調には気をつけて、充実した旅を送ってくれ！じゃあな！」

アルミン「いつてきます！グリシヤさん、お元気で！」

ミカサ「グリシヤおじさん、行ってきます」

エレン「おう！行ってくるぜ！絶対ポケモンマスターになる！」

こうしてエレン、ミカサ、アルミンの3人は旅にでた、しかしこのとき3人は知らなかった：遠い未来、とんでもない事件に巻き込まれるだなんて：